

計測工学科卒業後 44 年を振り返って

～今年から計測会役員、宜しくお願いします～

F55 加藤 和幸

昭和 55 年(1980 年)3 月計測工学科卒業の加藤と申します。

昨年(2023 年)10 月頃に同期の野村さんより「計測会のお手伝いをしないか」とお誘いを受け、役員会での承認後、寺倉会長よりの委嘱を受け、このたび計測会役員に就任させていただくことになりました。母校のため精一杯、手助け等させていただく所存です。よろしく願いいたします。

私は名工大には珍しく「教職畑」で仕事をしてきました。(当時は名工大でも数学や工業の教職免許が取れました)北名古屋市の公立中学教員から始まり、結婚を機に家内の母校である金城学院高校へ転職、大学講師との兼任を経て高校を定年退職し、現在は金城学院大学非常勤講師と桜花学園大学客員教授として学生の前に立っています。専門は「情報リテラシー論」「情報教育論」「教科情報の指導法」などです。

参考までに、最近の私の仕事(教科「情報」の入試問題分析)が下記にあります。

<https://note.com/ipsj/n/n27b753751596>

情報処理, Vol.65, No.3, pp.e39-e45 (2024-02-15)

学生時代は内藤先生の電気計測研究室に所属し、「脈波計測・圧電センサー」などの研究に取り組みました。また情報処理センターで FORTRAN のデータ処理において、多くのエラーを出し、無駄な出力用紙を使ったという苦い記憶も残っています。と書いてますが、私は決してまじめな学生ではなく、当時は「河合塾のチューター業」のアルバイトに精を出していました。高校生や小学校グリーンコースの講師も任され、他の塾の講師・家庭教師の掛け持ちもして、何が本業かわからない状況でした。卒業後の進路も自然と一般企業ではなく教職のほうに向かい、教員採用試験を受験することにしました。

ただ、当時の学校は「学校の情報化の黎明期」で工学部出身は何かと出番がありました。最初の公立中学では、地元工場がある当時の「松下電器」からポンと何百万円もする「ミニコン」が寄付され、誰も触れないので名工大出身の私に白羽の矢が当たり、現在の表計算ソフトのルーツである「VisiCalc(ビジカルク)?」に悪戦苦闘させられたという記憶があります。

金城学院に移ってからは、1994 年ごろ学内で始めてインターネットに接続(最初は電話による音声カップラー)その後、コンピュータ教室の設計、学内 LAN や学内サーバーの設定、パソ

コン部の LINUX サーバーの構築など「学校の情報化と教育の情報化」にかなりの情熱を注ぎました。さらに 2003 年度からは文科省により高校普通科の必修科目として「情報科」が導入され、認定講習で最初に免許を取るようになった私は、情報科主任として教科指導の仕事にも励み、大変充実した毎日でした。

教科「情報科」はその後もますます重要視され、2025 年度入試(現在の高 3)からは正式に大学入試科目となり大学入試共通テストでの科目として実施されることになりました。

母校名工大との再会は 2007 年頃だったと記憶しています。当時、名工大の「女子特別枠推薦」(今でも実施されています)を受験したいという生徒がおり、その説明会があるということで、何十年ぶりかで母校名工大を訪れることになりました。(その時に計測工学科出身の市川先生ともお会いできたと記憶しています)生徒に受験対策を指導しながら、名工大の特徴やその教育の中身などを調べる中で、母校へのノスタルジックな気持ちが沸き起こったことが思い出されます。その後、彼女は無事合格することができ、市川先生にもお世話になったとのこと、当時の私は母校への感謝する気持ちでいっぱいでした。

計測会の行事に参加するようになったのもそのころからです。大学時代の学びのこと、学生時代の思い出や当時の昔話など、知らない先輩や後輩らと、鶴舞公園の隣の御器所の古墳の麓の「学び舎の記憶」を共有しあうことで、あの頃の自分にタイムスリップできた時間を大変心地よく思ったものでした。これが同窓会の良いところだと思いました。

皆様も、もしお時間があれば計測会や名古屋工業会の行事に参加されてはどうでしょうか。気持ちのリセットをしたいとき、心のオアシスを求めたいとき、自分のルーツの再確認をしたいときなど、優しいゆるりとした時間を持てますよ。ぜひお待ちしております。